

## M 氏邸訪問記(2015.11.29)

### 1. はじめに

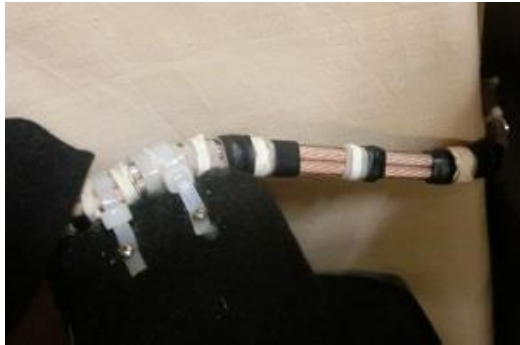
M 氏邸訪問は今年の 4 月以来で、今回の主な目的は、iPhono の前に MC ステップアップトランスを入れた効果が大いということと、新しくパワーアンプを導入されたということでしたので、それらを聴かせていただくことが目的です。当方からはインフラノイズの新製品とトランスを持参して音の変化を探ることも試みました。

### 2. M 氏邸のシステムの概要

基本的には[昨年](#)の訪問記と[今年](#)の訪問記の記載内容と同様ですが、iPhono の前に MC ステップアップトランスを入れたことと、写真では低域の駆動アンプがプレイヤーの後ろで見えませんが、PM14SA から現行製品の PM11-S3 に替えたところが変わっています。



また、いろいろなケーブルを写真のように foQ シートで带状に巻いて整振を施し、これだけでも随分と音が変わったそうです。



### 3. 試聴の経過

最初は SA7-S1 からの送り出しで、NY スタンウェイを機種と演奏者と曲を替えて聴かせていただきましたが、前回訪問時に比べて音の抜けや鮮度感が向上していることが分かりました。M 氏によるとケーブルへの対策が効いたということでした。次のベヒシュタインとグロトリアンというこれもピアノの名器で演奏された CD がかけられ、NY スタンウェイを含めて、ピアノの機種による音の違いが鮮明に捉えられていました。特に M 氏によるとグロトリアンの良さが以前は分かりにくかったのが、ようやく納得いく音で鳴らせるようになったとのことでした。モイセヴィッチの弾くベヒスタイン、ギーゼキングの弾くグロトリアンの銘盤は音だけでなく演奏そのものが堪能できました。

ここで、アナログに移り、Benz Micro ACE-M のカートリッジと DENON AU-S1 のトランス、iPhono のフォノイコというラインアップでショルティのワルキューレを聴いたのち、フォノイコの電源ケーブルをフィルタライザーを巻いて持参した電源ケーブルに交換しました。一聴してノイズフロアが下がり、透明感が向上することが分かりました。さらに、ターンテーブルの電源を取っているタップから二次的にタップリベラメンテを接続し、ここにフォノイコの電源とターンテーブルの電源を移しましたところ、さらに広がり感、奥行き感が出てきました。

ここで比較的新しいベヒシュタインの演奏を聴いた後、さらにトランスをDENONから持参したEMTのトランスSTX-20に替えますと、日本的な淡白な音からコクのあるヨーロッパトーンになりました。

この状態でライナー指揮シカゴの展覧会の絵のダイレクトカットと 45 回転片面カットのお宝盤を聴かせていただきましたが、フィルタライザー付き電源ケーブル、タップリベラメンテ、EMT のトランスと交換してきた効果で銘盤が聴いたことのないような音で感動的に聴くことができました。さらに持参したバッハの教会カンタータのアルヒーブの新旧 2 盤と TELEFUKEN の Das Alte Werk の盤を聴かせていただきましたが、レーベルやカットの時代による音の違いが如実に再現されました。

ここで再び CD 再生に戻り、持参したインフラノイズのマスタークオリティ盤第 5 弾の魔笛ファンタジーを聴かせていただきましたが、通常の CD では出にくいステージ感がよく出ているとの感想がでました。さらにウイーンフィルのハイドンの交響曲、クナパーブッシュのワーグナー、ケルンコンサートがかけられ、M 氏によればウイーンフィルの音がやっと出だしたとか、ケルンコンサートのベーゼンドルファーの音が少しマスタリング段階で弄られているとかのお話がありました。なお、ケルンコンサートではどうしてあまり調子の良くないベーゼンドルファーを使ったかとか、それでも即興で素晴らしい演奏に仕上がったかというような逸話はネット上で見る事ができます。

#### 4. まとめ

M 氏の綿密なチューニングの上にフィルタライザー付き電源ケーブル、タップリベラメンテ、EMT のトランスと順次交換した効果があわさって、かずかずの銘盤を堪能できました。フォノイコライザーにおける、タップリベラメンテとフィルタライザーの効果大きいことが M 氏邸でも確認できました。

以上